

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

# ディーヴォ ガイド



**2025.19-25**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

25:1 イスラエルはシティムにとどまっていたが、民はモアブの娘たちと淫らなことをし始めた。

25:2 その娘たちが、自分たちの神々のいけにえの食事に民を招くと、民は食し、娘たちの神々を拝んだ。

25:3 こうしてイスラエルはバアル・ペオルとくびきをとともにした。すると、【主】の怒りがイスラエルに対して燃え上がった。

25:4 【主】はモーセに言われた。「この民のかしらたちをみな捕らえて、【主】の前で、白日の下にさらし者にせよ。そうすれば、【主】の燃える怒りはイスラエルから離れ去る。」

25:5 そこでモーセはイスラエルのさばき人たちに言った。「あなたがたは、それぞれ自分の配下でバアル・ペオルとくびきをとともにした者たちを殺せ。」

25:6 ちょうどそのとき、一人のイスラエル人の男がやって来た。彼は、モーセと、会見の天幕の入り口で泣いているイスラエルの全会衆の目の前で、一人のミディアン人の女を自分の兄弟たちに近づかせた。

25:7 祭司アロンの子エルアザルの子ピネハスはそれを見るや、会衆の中から立ち上がり、槍を手に取り、

25:8 そのイスラエル人の男の後を追ってテントの奥の部屋に入り、イスラエル人の男とその女の二人を、腹を刺して殺した。するとイスラエルの子らへの主の罰が終わった。

25:9 この主の罰で死んだ者は、二万四千人であった。

25:10 【主】はモーセに告げられた。

25:11 「祭司アロンの子エルアザルの子ピネハスは、イスラエルの子らに対するわたしの憤りを押しとどめた。彼がイスラエルの子らのただ中で、わたしのねたみを自分のねたみとしたからである。それでわたしは、わたしのねたみによって、イスラエルの子らを絶ち滅ぼすことはしなかった。

25:12 それゆえ、言え。『見よ、わたしは彼にわたしの平和の契約を与える。

25:13 これは、彼とその後の彼の子孫にとって、永遠にわたる祭司職の契約となる。それは、彼が神のねたみを自分のものとし、イスラエルの子らのために宥めを行ったからである。』」

25:14 その殺されたイスラエル人の男、すなわちミディアン人の女と一緒に殺された者の名は、シメオン人の一族の長サルの子ジムリであった。

25:15 また殺されたミディアン人の女の名はツルの娘コズビであった。ツルはミディアンの父の家の諸氏族のかしらであった。

25:16 【主】はモーセに告げられた。

25:17 「ミディアン人を襲い、彼らを討て。

25:18 彼らは巧妙に仕組んだ企みによって、ペオルの事件であなたがたを襲ったからだ。ペオルの事件の主の罰の日に殺された彼らの同族の女、ミディアンの族長の娘コズビの一件だ。」

偶像は人間が作ったものなので、人間の欲望のためにあります。ですから「神々」のもとして「みだらなこと」をするのは当然とも言えます。イスラエルの男たちは欲望を満たし、さらには「神々を拝んだ」というように、偶像礼拝までしてしまっただけです。

この世はまさに欲望が偶像のようです。神様の

きよい永遠の価値観が惑わされないように、くれぐれも気をつけましょう。自分の心の中に、この世の欲望を慕って不信仰を行うような思いがあると気づいたなら、ピネハスのようにそれを絶つ決断をしましょう。主は聖霊の喜びによって正しい方向へと向かわせてくださり、永遠に変わらぬ楽しみを与えてくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26:1 この主の罰の後のことであった。  
【主】はモーセと祭司アロンの子エルアザルに告げられた。  
26:2 「イスラエルの全会衆について、一族ごとに、二十歳以上で、イスラエルで戦に出ることが出来る者すべての頭数を調べなさい。」  
26:3 そこでモーセと祭司エルアザルは、エリコをのぞむヨルダン川のほとりのモアブの草原で、彼らに告げた。  
26:4 「【主】がモーセに命じられたように、二十歳以上の者を数えなさい。」エジプトの地から出て来たイスラエルの子らは、  
26:5 イスラエルの長子ルベン。ルベン族は、ハノクからはハノク族、パルからはパル族、  
26:6 ヘツロンからはヘツロン族、カルミからはカルミ族。  
26:7 これらがガルベン人諸氏族で、登録された者は、四万三千七百三十人であった。  
26:8 パルの子孫はエリアブ。  
26:9 エリアブの子はネムエル、ダタン、アピラム。このダタンとアピラムは会衆から召し出された者であったが、コラの仲間としてモーセとアロンに逆らい、【主】に逆らった。  
26:10 そのとき、地は口を開けて、コラとともに彼らをのみ込んだ。それは、その仲間たちが死んだときのこと、火が二百五十人の男を食い尽くしたときのことである。こうして彼らは警告のしるしとなった。  
26:11 ただし、コラの子たちは死ななかった。  
26:12 シメオン族の諸氏族は、それぞれ、ネムエルからはネムエル族、ヤミンからはヤミン族、ヤキンからはヤキン族、

26:13 ゼラフからはゼラフ族、シャウルからはシャウル族。  
26:14 これらがシメオン人諸氏族で、登録された者は、二万二千二百人であった。  
26:15 ガド族の諸氏族は、それぞれ、ツェフォンからはツェフォン族、ハギからはハギ族、シュニからはシュニ族、  
26:16 オズニからはオズニ族、エリからはエリ族、  
26:17 アロデからはアロデ族、アルエリからはアルエリ族。  
26:18 これらがガド人諸氏族で、登録された者は、四万五百人であった。  
26:19 ユダの子はエルとオナン。エルとオナンはカナンの地で死んだ。  
26:20 ユダ族の諸氏族は、それぞれ、シェラからはシェラ族、ペレツからはペレツ族、ゼラフからはゼラフ族。  
26:21 ペレツ族は、ヘツロンからはヘツロン族、ハムルからはハムル族であった。  
26:22 これらがユダ諸氏族で、登録された者は、七万六千五百人であった。  
26:23 イッサカル族の諸氏族は、それぞれ、トラからはトラ族、プワからはプワ族、  
26:24 ヤシュブからはヤシュブ族、シムロンからはシムロン族。  
26:25 これらがイッサカル諸氏族で、登録された者は、六万四千三百人であった。  
26:26 ゼブルン族の諸氏族は、それぞれ、セレデからはセレデ族、エロンからはエロン族、ヤフレエルからはヤフレエル族。  
26:27 これらがゼブルン人諸氏族で、登録された者は、六万五百人であった。  
26:28 ヨセフ族の諸氏族は、それぞれ、マナセとエフライム。

26:29 マナセ族は、マキルからはマキル族。マキルはギルアデを生んだ。ギルアデからはギルアデ族。  
26:30 ギルアデ族は次のとおりである。イエゼルからはイエゼル族、ヘレクからはヘレク族、  
26:31 アスリエルからはアスリエル族、シェケムからはシェケム族、  
26:32 シェミダからはシェミダ族、ヘフェルからはヘフェル族。  
26:33 ヘフェルの子ツェロフハデには息子がなく、娘だけであった。ツェロフハデの娘の名は、マフラ、ノア、ホグラ、ミルカ、ティルツァであった。  
26:34 これらがマナセ諸氏族で、登録された者は、五万二千七百人であった。

この章からはイスラエルが約束の地に入るための備えの意味合いが強くなります。主はまず人口調査を命じられました。客観的な資料や統計が、主の摂理とみわさを明かにすることが多いですから、それらを大切にしましょう。

その中でいくつかのことが明らかになります。ルベン族のダタンとアピラム、また彼らに同調した者たちは「モーセとアロンに逆らい」、絶たれたので人数からは消されました。またシメオン族のジムリは罪を犯したので、このことから彼らの人数は、先の調査よりも減っています。

主への従順が後の子孫、また共同体の祝福を左右しますから、今主に従いましょう。

- ①神のみこころは？②どんな思いになりましたか？  
③生き方にどう適用しますか？  
④この世にあって何を実践しますか？

26:35 エフライム族の諸氏族は、それぞれ、次のとおりである。シュテラフからはシュテラフ族、ベケルからはベケル族、タハンからはタハン族。  
26:36 シュテラフ族は次のとおりである。エランからはエラン族。  
26:37 これらがエフライム人諸氏族で、登録された者は、三万二千五百人であった。これがヨセフ族の諸氏族である。  
26:38 ベニヤミン族の諸氏族は、それぞれ、ベラからはベラ族、アシュベルからはアシュベル族、アヒラムからはアヒラム族、  
26:39 シュファムからはシュファム族、フファムからはフファム族。  
26:40 ベラの子はアルデとナアマン。アルデからはアルデ族、ナアマンからはナアマン族。  
26:41 これらがベニヤミン族の諸氏族で、登録された者は、四万五千六百人であった。  
26:42 ダン族の諸氏族は次のとおりである。シュハムからはシュハム族。これらがダン族の諸氏族である。  
26:43 シュハム人の全諸氏族で、登録された者は、六万四千四百人であった。  
26:44 アシェル族の諸氏族は、それぞれ、イムナからはイムナ族、イシュウィからはイシュウィ族、ベリアからはベリア族。  
26:45 ベリア族のうち、ヘベルからはヘベル族、マルキエルからはマルキエル族。  
26:46 アシエル族の娘の名はセラフであった。  
26:47 これらがアシェル人諸氏族で、登録された者は、五万三千四百人であった。  
26:48 ナフタリ族の諸氏族は、それぞれ、ヤフツェエルからはヤフツェエル族、グニから

はグニ族、  
26:49 エツェルからはエツェル族、シレムからはシレム族。  
26:50 これらがナフタリ族の諸氏族で、登録された者は、四万五千四百人であった。  
26:51 以上が、イスラエルの子らの登録された者で、六十万一千七百三十人であった。  
26:52 【主】はモーセに告げられた。  
26:53 「これらの者たちに、その名の数にしたがって、地を相続地として割り当てなければならない。  
26:54 大きい部族にはその相続地を大きくし、小さい部族にはその相続地を小さくしなければならない。それぞれ登録された者に応じて、その相続地は与えられる。  
26:55 ただし、その地はくじで割り当てられ、彼らの父祖の部族の名にしたがって受け継がなければならない。  
26:56 その相続地は、大部族と小部族の間で、くじによって決められなければならない。」  
26:57 さて、レビ人で氏族ごとに登録された者は、次のとおりである。ゲルシオンからはゲルシオン族、ケハテからはケハテ族、メラリからはメラリ族。  
26:58 レビ諸氏族は次のとおりである。すなわち、リブニ族、ヘブロン族、マフリ族、ムシ族、およびコラ族。ケハテはアムラムを生んだ。  
26:59 アムラムの妻の名はヨケベデで、レビの娘であった。彼女はエジプトでレビに生まれた者で、アムラムにアロンとモーセと彼らの姉ミリアムを産んだ。  
26:60 アロンにはナダブとアビフとエルアザルとイタマルが生まれた。

26:61 ナダブとアビフは【主】の前に異なる火を献げたときに死んだ。  
26:62 登録された者は、生後一か月以上の男子すべてで、二万三千人であった。彼らは、イスラエルの子らとともに登録されなかった。イスラエルの子らの中に相続地が与えられていなかったからである。  
26:63 以上が、エリコをのぞむヨルダン川のほとりのモアブの草原で、モーセと祭司エルアザルがイスラエルの子らを登録したときに登録された者たちである。  
26:64 しかし、この中には、シナイの荒野でモーセと祭司アロンがイスラエルの子らを登録したときに登録された者は、一人もいなかった。  
26:65 それは【主】がかつて彼らについて、「彼らは必ず荒野で死ぬ」と言われたからである。彼らのうち、ただエフネの子カレブとヌンの子ヨシュアのほかには、だれも残っていなかった。

人口が増えている部族はルベン族やシメオン族の一部が罪を犯したときに、同調しなかったのです。主は憐れみによって祝福されました。信仰が不完全な者であっても、主の判断に任せつつ、主に従いましょう。

主は大きい部族、小さい部族を考慮なさいます。他の人を見て羨ましがする必要はないのです。レビ人に関しては他の部族のような割り当て地がありませんでしたが、それは彼らの奉仕が大切なのでそれに専念するためでもあります。

イスラエルは主の命に従わなかったため、約束の地に入れるのは、カレブとヨシュアだけでした。あなたはどうか。

①御心は ②思いは ③生き方は ④行動は

27:1 さて、ヨセフの子マナセの一族のツエロフハデの娘たちが進み出た。ツエロフハデはヘフェルの子、ヘフェルはギルアデの子、ギルアデはマキルの子、マキルはマナセの子であり、その娘たちの名はマフラ、ノア、ホグラ、ミルカ、ティルツァであった。

27:2 彼女たちは、モーセの前、祭司エルアザルの前、また族長たちと全会衆の前、すなわち会見の天幕の入り口に立って言った。

27:3 「私たちの父は荒野で死にました。父は、コラの仲間と一緒にあって、【主】に逆らったあの仲間たちには加わらず、自分の罪過によって死んだのです。しかし、父には息子がいませんでした。

27:4 息子がいなかったからといって、なぜ私たちの父の名がその氏族の間から削られるのでしょうか。私たちにも、父の兄弟たちの間で所有地を与えてください。」

27:5 そこでモーセは、彼女たちの訴えを【主】の前に差し出した。

27:6 すると【主】はモーセに告げられた。

27:7 「ツエロフハデの娘たちの言い分はもつともだ。あなたは必ず彼女たちに、その父の兄弟たちの間で、相続の所有地を与えよ。彼女たちに、その父の相続地を渡せ。

27:8 あなたはイスラエルの子らに語れ。人が死に、その人に息子がいないときは、あなたがたはその相続地を娘に渡さなければならない。

27:9 もし娘もいないときには、その相続地を彼の兄弟たちに与えよ。

27:10 もし兄弟たちもいないときには、その相続地を彼の父の兄弟たちに与えよ。

27:11 もしその父に兄弟がいなかったときには、

その相続地を、彼の氏族の中で彼に一番近い血縁の者に与え、それを受け継がせよ。これは、【主】がモーセに命じられたとおり、イスラエルの子らにとってさばきの掟となる。」

ここに、主は男女の差別をなさらず、女性を尊んでおられることがわかります。聖書に男女の区別が記されてあるのは、その役割についての違いです。決して男性が女性に勝ることはありません。また女性が何もかも男性と同じでなければならないということもありません。

自分に与えられた性別を感謝しつつ、また誇りを持ちつつ、そして主の深いいつくしみと守りを確信しつつ、互いの違いを尊びつつ、何よりも自分に与えられた性別を喜び楽しみつつ、主の人生の歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





## 23日 金曜

### 民数

27:12 【主】はモーセに言われた。「このアバリム山に登り、わたしがイスラエルの子らに与えた地を見よ。

27:13 それを見て、あなたもまた、あなたの兄弟アロンが加えられたのと同じように、自分の民に加えられる。

27:14 ツィンの荒野で会衆が争ったとき、あなたがたがわたしの命令に逆らい、彼らの見ている前で、あの水のところで、わたしが聖であることを現さなかったからである。」これはツィンの荒野のメリパテ・カデシュの水のことである。

27:15 モーセは【主】に言った。

27:16 「すべての肉なるものの霊をつかさどる神、【主】よ。一人の人を会衆の上に定め、

27:17 彼が、彼らに先立って出て行き、先立って入り、また彼らを導き出し、導き入れるようにしてください。【主】の会衆を、羊飼いのいない羊の群れのようにしないでください。」

27:18 【主】はモーセに言われた。「あなたは、神の霊の宿っている人、ヌンの子ヨシュアを連れて来て、あなたの手を彼の上に置け。

27:19 彼を祭司エルアザルの前に、また全会衆の前に立たせ、彼らの目の前で彼を任命せよ。

27:20 あなたは、自分の権威を彼に分け与え、イスラエルの全会衆を彼に聞き従わせよ。

27:21 彼は祭司エルアザルの前に立ち、エルアザルは【主】の前で、ウリムによるさばきを自分のために伺わなければならない。ヨシュアと彼とともにいるイスラエルの子らのすべての者、すなわち全会衆は、エルアザル



の命令によって出、また、彼の命令によって入らなければならない。」

27:22 モーセは【主】が命じられたとおりに行った。ヨシュアを連れて来て、彼を祭司エルアザルと全会衆の前に立たせ、

27:23 自分の手を彼の上に置いて、【主】がモーセを通して告げられたとおりに任命した。

モーセは自分が逆らったことのゆえに、約束の地に入る前に、死ぬことを宣告されました。しかし彼は自分の死を嘆き悲しむよりも、残された民のことを憂いて主に願ったのです。このような姿に大いに教えられます。

モーセの憂いは正しいものであったので、主からの解決がありました。すなわちヨシュアが彼の後の指導者となるということです。

私たちは自分が頑張ってきたものに対して、固執したい思いが出易いので、誰にも渡したくない気持ちになるものです。奉仕でも、立場でも、賞賛でも、主がさらに新しい人材を用いられるのであれば、その人に喜んで明け渡しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 24日 土曜

### 民数



28:1 【主】はモーセに告げられた。  
28:2 「イスラエルの子らに命じて彼らに言え。あなたがたは、わたしのための食物、わたしへのささげ物を、わたしへの食物のささげ物、芳ばしい香りとして、定められた時に確実にわたしに献げなければならない。  
28:3 彼らに言え。これがあなたがたが【主】に献げる食物のささげ物である。傷のない一歳の雄の子羊を、毎日二匹、常供の全焼のささげ物として。  
28:4 一方の子羊を朝献げ、もう一方の子羊を夕暮れに献げなければならない。  
28:5 穀物のささげ物として、上質のオリーブ油四分の一ヒンを混ぜた小麦粉十分の一エバ。  
28:6 これはシナイ山で定められた、常供の全焼のささげ物であり、【主】への食物のささげ物、芳ばしい香りである。  
28:7 それに添える注ぎのささげ物は、子羊一匹につき四分の一ヒンとする。聖所で、【主】への注ぎのささげ物として強い酒を注ぎなさい。  
28:8 もう一方の子羊は夕暮れに献げなければならない。朝の穀物のささげ物、および、それに添える注ぎのささげ物と同じものを、これに添えて献げなければならない。これは【主】への食物のささげ物、芳ばしい香りである。  
28:9 安息日には、傷のない一歳の雄の子羊二匹と、穀物のささげ物として油を混ぜた小麦粉十分の二エバと、それに添える注ぎのささげ物。  
28:10 これは、安息日ごとの全焼のささげ物で、常供の全焼のささげ物とそれに添える注

ぎのささげ物に加えられる。  
28:11 あなたがたは月の最初の日に、次のものを献げなければならない。【主】への全焼のささげ物として、若い雄牛二頭、雄羊一匹、傷のない一歳の雄の子羊七匹。  
28:12 雄牛一頭につき、穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉十分の三エバ。雄羊一匹につき、穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉十分の二エバ。  
28:13 子羊一匹につき、穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉十分の一エバ。これらが【主】への全焼のささげ物、芳ばしい香り、食物のささげ物である。  
28:14 それに添える注ぎのささげ物は、雄牛一頭につき二分の一ヒン、雄羊一匹につき三分の一ヒン、子羊一匹につき四分の一ヒンのぶどう酒でなければならない。これは一年を通して毎月の、新月祭の全焼のささげ物である。  
28:15 【主】への罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これは、常供の全焼のささげ物とそれに添える注ぎのささげ物に加えられる。

これはレビ記に記されていることと同じ内容です。指導者が変わっても主の命令は変わらないことを意味します。教会でも人事が変わっても、人によって大切なみこころが損なわれることのないようにしなければなりません。

「毎日二頭」とは日々のささげもの、「安息日」とは週ごとのささげもの、「月の第一日」とは月ごとのささげものです。私たちはあらゆる生活のシーンで主への献身を表わすことが必要で、それによって主の恵と力を体験できるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 25日 日曜

### 民数



28:16 第一の月の十四日は、過越のいけにえを【主】に献げなければならない。  
28:17 この月の十五日は祭りである。七日間、種なしパンを食べなければならない。  
28:18 その最初の日には、聖なる会合を開く。いかなる労働もしてはならない。  
28:19 あなたがたは、【主】への食物のささげ物、全焼のささげ物として、若い雄牛二頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊七匹を献げなければならない。それはあなたがたにとって傷のないものでなければならない。  
28:20 それに添える穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉を、雄牛一頭につき十分の三エパ、雄羊一匹につき十分の二エパとする。  
28:21 子羊七匹については、一匹につき十分の一エパとする。  
28:22 あなたがたのために宥めを行うには、罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹とする。  
28:23 常供の全焼のささげ物である朝の全焼のささげ物のほかに、これらのものを献げなければならない。  
28:24 このように七日間、【主】への芳ばしい香り、食物のささげ物のパンを、毎日、献げなければならない。これは常供の全焼のささげ物とその注ぎのささげ物に加えて献げられなければならない。  
28:25 七日目にあなたがたは聖なる会合を開かなければならない。いかなる労働もしてはならない。  
28:26 初穂の日、すなわち七週の祭りに、新しい穀物のささげ物を【主】に献げるときには、聖なる会合を開かなければならない。い

かなる労働もしてはならない。

28:27 あなたがたは、【主】への芳ばしい香りとして、全焼のささげ物、すなわち、若い雄牛二頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊七匹を献げよ。

28:28 さらに、それに添える穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉を、雄牛一頭につき十分の三エパ、雄羊一匹につき十分の二エパ。

28:29 七匹の子羊については、一匹につき十分の一エパ。

28:30 あなたがたのために宥めを行うには、雄やぎ一匹とする。

28:31 常供の全焼のささげ物とそれに添える穀物のささげ物とは別に、これらのものを、それらに添える注ぎのささげ物とともに献げなければならない。それらは傷のないものでなければならない。

「過ぎ越しのささげもの」とは、イスラエルが奴隷であったエジプトから救われた記念です。私たち新約の恵に生きる者にとって、それはイエス様の十字架による救いです。その感謝を定期的にささげることを主は命じておられるのです。

感動があったときや恵まれたときにささげるのが自然な気持ちと感じるかもしれませんが、それは私たちの主観なので曖昧です。「七日め」とあるように、終末に主の救いに感謝するために礼拝に参加することは大切です。

「初穂の日」は、産業のゆえに感謝する日です。かつては奴隷であり、また荒野にあり、畑を持たなかった民が、約束の地で収穫を得るとは何と言う恵でしょうか。私たちの収穫、糧も、信仰ゆえの主からの恵なのです。これもまた定期的に感謝をささげましょう。そうでないと、自分が得たを勘違いして、人生を修正しなくてはならなくなります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

